

2018年 北海道胆振東部地震 調査団 活動経過報告（続報）

令和元年6月5日(水)に、4団体（(一社)日本応用地質学会北海道支部、北海道応用地質研究会、(公社)日本地すべり学会北海道支部、北海道地すべり学会）が主催する「厚真川水系日高幌内川河道閉塞岩盤すべりコア観察会が開催されました。本観察会には、平成30年北海道胆振東部地震災害調査団員12名（内協力者2名）を含む、計36名が参加しました。

日高幌内川で河道閉塞を引き起こした岩盤すべりの規模は長さ1,000m以上、幅500m、深さ50m、移動距離は350m程度と見積もられています。河道閉塞発生後、この岩盤地すべりに対して北海道開発局がボーリング調査等を実施しています。本観察会では、北海道開発局から調査結果を提供していただき、ボーリングコアの観察、移動土塊が出現した掘削面の観察を行いました。

当日は雨が断続的に降るあいにくの天気でしたが、コア観察・掘削面観察時には雨も止み、すべり面やすべり土塊の状況について多くの意見交換が行われました。

今後、この観察会で得られた知見を検討し、調査成果にまとめていきます。

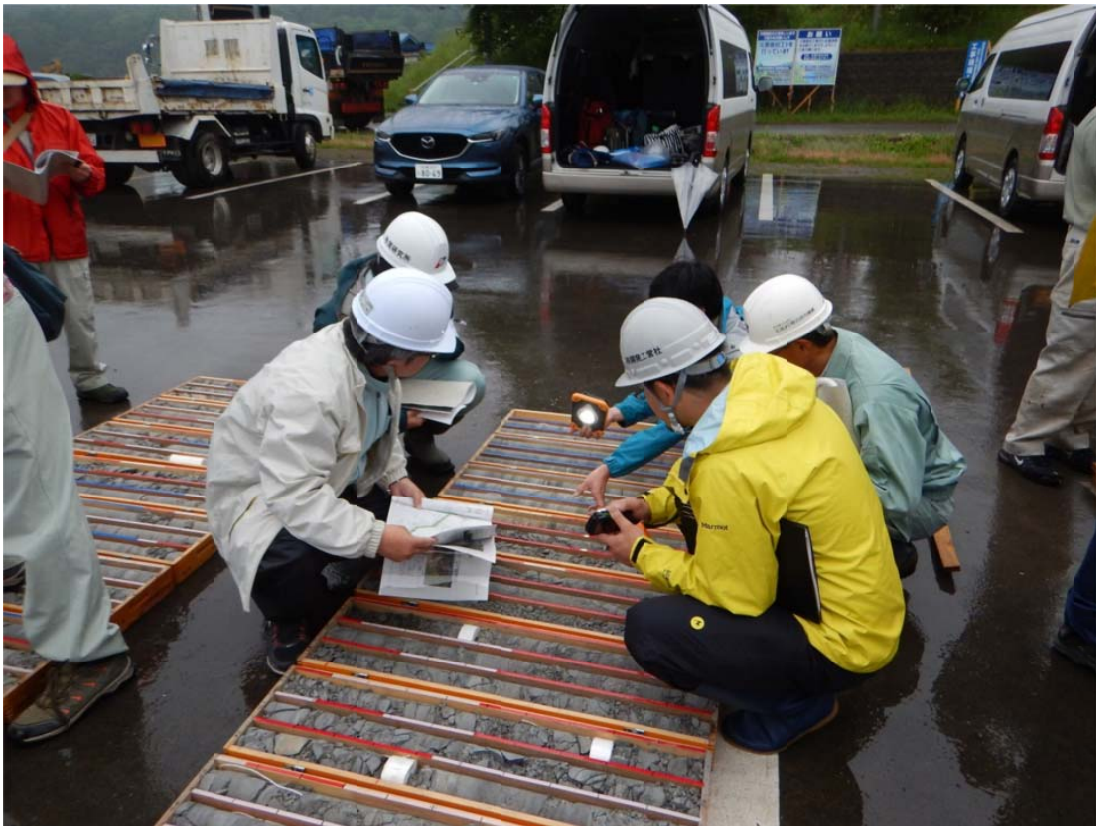


写真-1 岩盤すべり箇所を掘削したコアを観察



写真-2 水路掘削で出現した移動土塊（上位の暗灰色部）と河床堆積物（下位の茶色部）の接触面。移動土塊の割れ目に河床堆積物が注入されている様子が観察できる。



写真-3 参加者の集合写真
(北海道応用地質研究会、(公社)日本地すべり学会北海道支部、北海道地すべり学会と協同)